

インシュアテックと保険事業

司会:拓殖大学 宮地 朋果

パネリスト:京都産業大学 吉澤 卓哉
香川大学 安井 敏晃
第一生命ホールディングス 武藤 伸行
三井住友海上 栗原 光自郎

1. インシュアテックとは

インシュアテック(InsurTech)は、保険(Insurance)とテクノロジー(Technology)を組み合わせた造語であり、フィンテック(FinTech)の保険業界版の位置づけにある。保険業界は従来、体質が古く、参入障壁の高い業界であるとみなされてきた。また、保険商品の内容や保険の仕組み自体も、一般の保険契約者等にはわかりにくいとされる。それらの背景や保険会社の経営における不透明さ、消費者への説明不足などを一因とする問題が数多く指摘されている。さらに、保険加入から保険金受取までの手続きの煩雑さなども、保険契約者等の満足度および利便性を低める要因となっている。

インシュアテックは、これらの問題を軽減し、従来では考えられなかったような新たな保険商品やサービスを保険契約者等に提供していくための起爆剤として、注目を集めている。近年は日本においてもスタートアップのみならず、大手の生・損保会社がベンチャー企業やIT企業と連携して、インシュアテックへの取組を積極的に行っており、インシュアテック市場は急速な拡大を見せている。

インシュアテックは、AI(人工知能)、IoT、ビッグデータ、ブロックチェーンなどの最新技術の使用により、保険契約者等の個々のリスクや希望に応じた保険商品の開発などを可能にしている。また、たとえば病気の予防等の新たなサービス・付加価値を提供することや手続きの簡略化・迅速化により、保険契約者等の満足度や利便性を高める効果も期待できる。保険商品の販売から支払までの保険業務の効率化・合理化を進めることにより、保険会社の収益性も高まる。それと同時に、保険業務に従事する人びとの働き方が大きく変わる可能性や他業態とのコラボレーションの活発化なども期待される。

2. 共通論題の目的

本共通論題では、現在の日本でインシュアテックがどのような発展段階にあるのか、インシュアテックが保険事業・保険産業に与える影響とは何か、保険契約者等への影響としていかなることが予想されるか、保険会社が「保険契約者等の保護」の姿勢を維持するために保険業法・保険規制でどのように対応すべきかを考察し、インシュアテックがもたらす保険産業の未来像などについて検討する。なおパネリストの共通認識として、以下の2点がある。

1. インシュアテックの進展は、不可逆的である
2. 日本のインシュアテックをめぐる環境は、世界から遅れをとっている

この共通認識に基づき、本共通論題では、主に保険法学・保険経済学・商学の観点から論じたうえで、日

【令和元年度 日本保険学会全国大会】
共通論題「インシュアテックと保険事業」
報告要旨：宮地 朋果

本における生保・損保のインシュアテックへの取組について、各社の事例や海外を含む最新動向などを紹介し、インシュアテックの利用をめぐる可能性や課題などに関する議論を深めていきたい。たとえば以下の4つの論点が考えられる。

1. 保険事業および保険産業へのインパクト
 - (1) 既存会社のテレマティクス保険、ウェアラブル・デバイスを通じた健康情報の収集
 - (2) 保険販売のオムニチャネル化やデジタルマーケティングの進展
 - (3) ベンチャー企業によるP2P保険の勃興、膨大なデータを保有する他業態からの参入
 - (4) 保険事業のアンバンドリングの進展、AIの導入を通じた業務効率化
 - (5) 保険産業の地殻変動、保険産業と他業態の融合や複合化
2. 技術革新の進展が契約者利益に及ぼす影響
 - (1) 保険商品面では、情報端末を活用した「料率細分化型保険」「引受基準緩和型保険」やカスタムメイド型の保険が登場する。一般的には、保険料率の低廉化につながることが多いが、一部で保険排除の危険性も生じることが予測される
 - (2) 情報収集手段の充実のなかで、保険商品が多様化することは、選択の幅を広げる意味で望ましい。一方で、適切な選択をどのように支援していくのか、サポート体制もより重要になる
 - (3) 保険販売チャネル改革による影響については、不確定要素も多い
3. 保険業法や保険規制への対応のあり方
 - (1) 保険取引や市場のプレイヤーが広がる中で、業務範囲規制をどうすべきか。また、業界横断的な規制体制をどう構築すべきか
 - (2) 従来からある機能別規制と主体別規制の相克が、より先鋭化することになる
 - (3) 個人情報の保護やセキュリティ問題に、規制でどのように対応していくべきか
4. 保険産業の未来像・展望
 - (1) 保険技術革新の動向
 - (2) 新たなリスクのタイプと専門人材の育成

3. 共通論題の構成

1. 基調講演：東京経済大学 佐々木 裕一
「スマートフォン＋アプリが作る「情報環境」と倫理
～データ活用の近未来を構想するにあたって～」
2. パネリストからの報告
 - (1) 情報社会の急速な進展による保険制度における「信頼」の変容
～インシュアテックが保険制度における「信頼」に与える影響～：吉澤 卓哉
 - (2) 健康増進型保険が保険事業に与える影響について：安井 敏晃
 - (3) 生命保険業界におけるインシュアテックの取組み等：武藤 伸行
 - (4) 三井住友海上のデジタルライゼーション取組：栗原 光自郎
3. パネル・ディスカッション、フロアとの質疑応答